

第1学年＊組 国語科学習指導案

指導者（T1） 井上 秀次
（T2） 播田實 竜大

国語科における テーマ	話し合い活動を通して、自分の考えを広げ、深める指導の工夫
----------------	------------------------------

- 1 単元名 話の構成に注意して、「先輩」からのメッセージを伝えよう
—「〇〇中ライフ」紹介プレゼンテーション—

2 単元について

本単元では、言語活動として「〇〇中での生活の様子や、中学校生活で学んだことなどについて、来年度入学してくる〇〇小の6年生に紹介するプレゼンテーションを行う」ことを位置付けた。プレゼンテーションとは、何らかの計画や企画、学習内容などを話し言葉だけでなく、様々なツールを用いて他者に説明することである。小学6年生にとって分かりやすいプレゼンテーションにするためには、取材した材料や自分の考えなどをどのように配列して話の全体を構成するかを考えたり、相手意識や場面意識を高めながら「話すこと」の既習事項を活用したりすることが必要である。したがって、本単元でねらう「全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話すこと。」（A話すこと・聞くことイ）及び「話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すこと。」（A話すこと・聞くことウ）を実現するのにふさわしい言語活動であると考えた。

本学級の生徒は、1学期の単元「会話が弾む質問をしよう」において、話題提供者の「話したい内容」を複数の質問者が質問を重ねながら引き出していくゲーム形式の言語活動「つながるQ&A」を通して、話の内容が広がったり深まったりするような、よりよい質問をすることができるようになった。一方で、「話すこと」に関しては、「読むこと」と関連付けた複合単元「筆者になりきって『スズメは本当に減っているか』をプレゼンテーションしよう」において、筆者の研究の成果を検証の過程に沿って聞き手に説明するという言語活動を行った。その結果、説明されている事実とそれに基づく筆者の考えを読み分け、箇条書きにしたり図解したりしながらプレゼンテーションシートにまとめることができるようになった。しかし、聞き手に対するプレゼンテーションを行う活動では、プレゼンテーションシートの内容を読み上げるだけの説明や、聞き手が理解しているかどうかを確かめないまま一方的に話し続ける説明が見られるなど、「話すこと」の力に関して課題があることがうかがえた。これまでの「話すこと・聞くこと」の学習では、話題設定や取材に関する事項に重点を置いた指導を行ってきたが、これからは、相手意識や場面意識を高めながら話す力を育成するための指導を行う必要があると考え、言語活動「『〇〇中ライフ』紹介プレゼンテーション」を位置付けた。

まず、単元の導入場面において、昨年度、現在の中学2年生から中学校生活について紹介してもらった際の映像を提示する。この手立てにより、本単元において重要な目的意識や相手意識を高めると共に、プレゼンテーションの完成までに必要となる活動や、そこで付けていく力について見通しをもたせられるようにする（課題との対話）。次に、〇〇小の6年生に対して事前に行った「〇〇中での生活について知っておきたいこと」に関するアンケート調査の結果を踏まえ、紹介するテーマについてウェビングで発想を広げながら、プレゼンテーションに必要な写真や動画を収集したり、プレゼンテーションシートやフリップなどの資料を作成したりする。その際、テレビ番組やインターネットなどで紹介されたプレゼンテーションのグッドモデルを複数提示し、比較・分析を行いながら、参考にすべき点を整理できるようにする。そして、作成した資料の提示方法やプレゼンテーション全体の構成を「プレゼン構成ボード」にまとめ、グループや全体で話し合いながらリハーサルを繰り返し行い、プレゼンテーションの完成度を高めていく。リハーサルの様子はタブレット端末で録画し、グループ内及びグループ間での相互評価の際に確認することで、より分かりやすいプレゼンテーションについて、多面的・多角的な視点から理解を深めることができるようにする（仲間との対話）。最後に、〇〇小の6年生の教室に出向き、ショー&テルの連続性に留意しながら「『〇〇中ライフ』プレゼンテーション」を行う。ここでは、自分たちのプレゼンテーション

が、小学6年生が知りたいと思っていた内容を満たしていたかどうか振り返ると共に、本単元で身に付けた力を日常生活や社会生活で活用する場面について想起できるようにする（自分との対話）。このように、目的意識や相手意識を明確にし、話の構成に注意しながらプレゼンテーションを行うことは、話し合い活動を通して、自分の考えを広げ、深める指導の工夫というテーマを具現化した有効な言語活動であると考え、本単元を設定した。

3 単元の目標

- 中学校生活の様子やそこで学んだことなどについて、紹介する相手によく分かるように、工夫してプレゼンテーションをしようとする。（国語への関心・意欲・態度）
- 中学校生活の様子やそこで学んだことなどについて分かりやすくプレゼンテーションをするために、話をどのように組み立てるかを考えたり、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択に注意して話したりすることができる。（話すこと・聞くこと）
- 音声の働きや仕組みについて注意し、目的や場面に応じて適切な音量や抑揚などで話すことができる。（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

4 単元の指導計画と評価計画（8時間）

次	時	学習課題	評価規準・（評価方法）
一	1	「〇〇中ライフ」を〇〇小の6年生に分かりやすく紹介するためにはどのような方法があるだろう。	[国語への関心・意欲・態度] ・中学校生活の様子やそこで学んだことなどを分かりやすく紹介するための方法について、見通しをもとうとしている。（学習計画表の記述内容）
	2	プレゼンテーションのグッドモデルを分析して、聞き手に分かりやすく伝えるためのポイントをまとめよう。	[話す・聞く能力] ・伝えたいことを目的や場面に応じて分かりやすく紹介するための方法について話し合い、自分の考えをまとめている。（発表の様子の観察、ノートの記述内容）
二	1 2	分かりやすいプレゼンテーションにするために必要な資料を収集したり、作成したりしよう。	[話す・聞く能力] ・身近な人への取材を通して体験談や写真、動画などの資料を集め、紹介の目的を考えて整理したり再構成したりしている。（プレゼンテーション用の資料の内容）
	3	伝えたいことの中心が明確になるように、資料を活用したプレゼンテーションの構成を考えよう。	[話す・聞く能力] ・伝えたいことを分かりやすく紹介するために、話をどのように構成するか考えている。（プレゼン構成ボードの内容）
	4 （本時）	「『〇〇中ライフ』紹介プレゼンテーション」のリハーサルを行い、6年生に最も伝わりやすいプレゼンの仕方について確かめよう。	[話す・聞く能力] ・話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、資料の提示の仕方に注意して話している。（リハーサルの様子、タブレット端末の録画内容）
	5	聞き手の反応を踏まえた話し方や資料の提示の仕方に注意しながら、「『〇〇中ライフ』紹介プレゼンテーション」をしよう。	[話す・聞く能力] ・話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、資料の提示の仕方に注意し、相手の反応を踏まえながら話している。（プレゼンテーションの様子）
三	1	単元で身に付けた力を活用することができる場面について、自分の考えをまとめよう。	[言語についての知識・理解・技能] ・音声の働きや仕組みについて注意し、目的や場面に応じて適切な音量や抑揚などで話している。（発表の様子の観察、ノートの記述内容）

5 本時の学習

(1) 目標

「『〇〇中ライフ』紹介プレゼンテーション」のリハーサルを通して、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、資料の提示の仕方に注意して話すことができる。

(2) 準備・資料

・プレゼン構成ボード ・ホワイトボード ・タブレット端末 ・プロジェクター ・スクリーン

(3) 板書案

プレゼン構成ボードの例

○目的・意図 (テーマ：中学校での自主学習)

私たちは、中学校での自主学習の進め方を知ってもらうために、定期テストの点数アップにつながった自主学習ノートを示すなど、実体験を交えてプレゼンを行います。

○構成

結論	本論 2	本論 1	序論
六年生への メッセージ	具体例 2 (資料②)	具体例 1 (資料①)	話題の 提示
	資料②: 先生のインタビュー	資料①: 自主学習ノートのコピー	

話の構成に注意して、「先輩」からのメッセージを伝えよう
—「〇〇中ライフ」紹介プレゼンテーション—

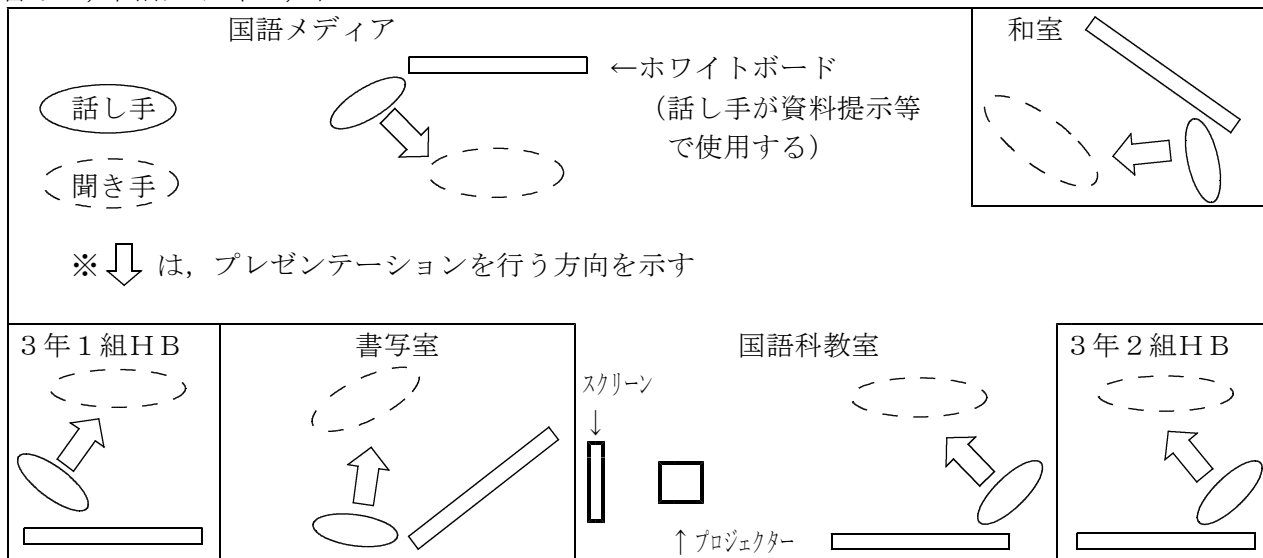
「『〇〇中ライフ』紹介プレゼンテーション」のリハーサルを行い、〇〇小の六年生に最も伝わりやすいプレゼンの仕方について確かめよう。

〈本時の活動〉

1	学習課題の確認	5分
2	各テーマ内でのリハーサルの準備	5分
3	他のテーマ同士でのリハーサル	25分
4	全体での交流及びまとめ	10分
5	振り返り	5分

(4) 学習の場

- 全体の学習…国語科教室
- プレゼンテーションのリハーサル (各テーマごと) …国語科教室, 3年1組HB, 3年2組HB, 書写室, 国語メディア, 和室



(5) 展開

学習活動 (予想される生徒の姿) ・内容	指導上の留意点と評価
1 前時の活動を振り返る。	・前時までの言語活動及び身に付けた力について振り返ることができるように、各グループが前時にまとめたプレゼン構成ボードを拡大して提示しておく。
2 本時の学習課題を確かめる。	・タイムプロットカードを黒板に掲示し、学習計画表と

「『〇〇中ライフ』紹介プレゼンテーション」のリハーサルを行い、6年生に最も伝わりやすいプレゼンの仕方について確かめよう。

3 各グループ内でリハーサルを行う。
(リハーサル1)

(1) プレゼン構成ボードを基に、目的や意図、構成の工夫等について確認する。

(予想されるテーマ)
教科担任の授業 自主学習の進め方 定期テスト
部活動 サークル活動 学校生活のきまり 行事
(「目的や意図」の例)
自主学習の進め方を知ってもらうために、テストの点数アップにつながったノートを示すなど、

実体験を交えてプレゼンを行います。

(2) タブレットで録画しながらプレゼンテーションを行う。

(3) 録画したプレゼンテーションを再生し評価の観点を中心に、よくできた点や改善点について確認する。

4 他のテーマ同士でのリハーサルを行う。
(リハーサル2)

(1) プレゼン構成ボードを基に、目的や意図、構成の工夫等について確認する。

(2) タブレットで録画しながらプレゼンテーションを行う。

(3) 録画したプレゼンテーションを再生し評価の観点を中心に、よくできた点や改善点について助言する。

・6年生の反応を見るために、間の取り方に注意して話した方がいい。

・途中で見せる写真は、どこに注目してほしいか伝えた方がいい。

・ラケットについて説明するときには、実物を用意して、その場で振ってみたり、実際に手に取ってもらったりした方がいい。

・「〇〇」という言葉は6年生にとってあまり馴染みがないから、補足説明を入れた方がいい。

(4) 話し手側と聞き手側を変えて(1)～(3)を行う。

(5) 各グループごとに、改善の必要がある部分についてのみ、再度リハーサルを行う。

5 各グループに共通する、「6年生にとって分かりやすいプレゼンテーション」のポイントについてまとめる。

(予想されるポイントの例)

・聞き手が頷いているかどうか確かめるために間を置きながら話す。

・聞き手にとって特に重要だと思う部分についてはゆっくりと丁寧に説明する。

・プレゼンテーションシートのどこに注目してほしいのか示しながら話す。

6 本時の学習課題について振り返る。

①分かったこと、できるようになったこと(身に付いた力)

②交流で考えが広がったり深まったりしたこと

③次時で力を入れて取り組みたいこと

併せて確認することで、課題解決の道筋及び身に付ける力について見直しをもてるようにする。

・活動に円滑に取り組めるようにするために、各テーマごとにリハーサルを行う場の設定については、機器の準備も含めて事前に行っておく。

・プレゼン構成ボードの内容について、リハーサル前にグループ内で確認し合うことで、評価の観点をより明確にできるようにする。

・タブレット端末の操作に不慣れな生徒には、前時に配付した操作マニュアルを確認しながら進めるよう助言する。

・リハーサル1を通して新たに気付いた点については、プレゼン構成ボードに書き込み修正等を行い、他のグループとのリハーサルを行う際に改善を図るよう助言する。

・T1とT2がそれぞれ担当するグループを事前に決めておき、各グループのテーマに応じた指導助言を効率よく行えるようにする。

・話し手側は、リハーサル1を踏まえ、聞き手側のグループに着目してもらいたい点について説明できるようにする。

・聞き手側に対して、「6年生にとって分かりやすいプレゼンテーションになっているか」という点を重視しながら評価及び助言を行うよう指示する。

・助言された点についてはタブレット端末の録画内容を一部再生して確認し、再度リハーサルを行う際に改善を図れるようにする。

【話す・聞く能力】

・話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、資料の提示の仕方などに注意して話している。
(タブレット端末に録画したリハーサルの様子)

【努力を要する生徒への働きかけ】

・第2時にプレゼンテーションのグッドモデルを分析してまとめた、聞き手に分かりやすく伝えるためのポイントを示す。

【十分満足できる状況例】

・聞き手の反応を踏まえ、資料の提示の仕方や説明の内容などについて新たに工夫を加えながら話している。

・同グループ、他グループのリハーサルを通して最も改善が見られたグループのプレゼンテーションの動画を全員で視聴することで、より分かりやすくするためのポイントについてイメージしやすくする。

・まとめられた「より分かりやすいプレゼンテーションにするためのポイント」については、目的や意図に応じて使い分けられることを確認し、次時の活動に生かせるようにする。

・「自分との対話」がより深まるよう、本時の学習課題について振り返るための視点を具体的に示す。

・次時の学習では実際に〇〇小の6年生にプレゼンテーションを行うことを伝え、見直しをもって臨めるようにする。